

記録映画アーカイブ・プロジェクト 第13回ミニワークショップ  
「PRする映画～電通映画社フィルムアーカイブから～」

日時：2019年11月27日（水）18:00-20:30（開場は17:30）

会場：東京大学本郷キャンパス 工学部2号館9階 92B教室

定員：80名（参加無料・当日先着順・事前申し込み不要）

\*満員になった場合、ご入場できないことがありますのでご了承ください。

上映：(予定)

- ・「東京」（1936年、10分、日本電報通信社活動写真部、昭和11年東京の1日）
- ・「ビールむかしむかし」（1956年、12分、日本初の人形アニメのPR映画）
- ・「くらしの中のガスーガス湯沸器」（1961年、7分、家庭向け販売促進映画）
- ・「挑戦」（1963年、31分、広報映画、カンヌ国際映画祭で短編部門グランプリを受賞）

お話：

鈴木昇（電通ライブ）「電通映画社フィルムアーカイブについて」

河尻珍（広島市立大学）「メディア史のなかのPR映画」

内容：

記録映画のアーカイブを活用して、映像を用いた多様な研究・教育の可能性を再発見する連続ワークショップ（研究上映会）。今回は、PR映画やテレビCMの製作で業界をリードした、電通映画社の作品を見ていきます。

大衆との接点である広告、宣伝、PR活動の舞台が、新聞、ラジオから映画へ、そしてテレビとメディアが移り変わっていく中で、1943年に設立された電通映画社は数多くのPR映画やテレビCMを製作してきました。この度電通映画社を継承する電通ライブは、本年保管する11,000本（CMを除く映像作品）の中からフィルム作品3,000本をアーカイブしました。

今回はその中から、電通映画社の前身の日本電報通信社が製作した「東京」、人形アニメーションの技法を活かしてビールの歴史を紹介した「ビールむかしむかし」、1964年東京五輪で「東洋の魔女」と言われた日紡貝塚バレーボールチームの猛練習を記録した「挑戦」など、貴重な映画の数々を上映します。

電通映画社フィルムアーカイブには今後どのような活用の可能性があるのか。ゲストには、広報・PR研究を専門とする広島市立大学の河尻珍さんと、電通ライブアーカイブ担当の鈴木昇さんをお迎えして、同アーカイブの概要や今後の展望を語っていただきます。

主催：

記録映画アーカイブ・プロジェクト（東京大学大学院情報学環丹羽研究室、吉見研究室）

お問い合わせ：記録映画保存センター（運営窓口）Tel: 03-3222-4249

Email: center\_otoiawase@kirokueiga-hozon.jp